自己点検・評価報告

2022年

京都大学人文科学研究所

Ⅰ　研究所の概要

Ⅰ　研究所の概要

目的

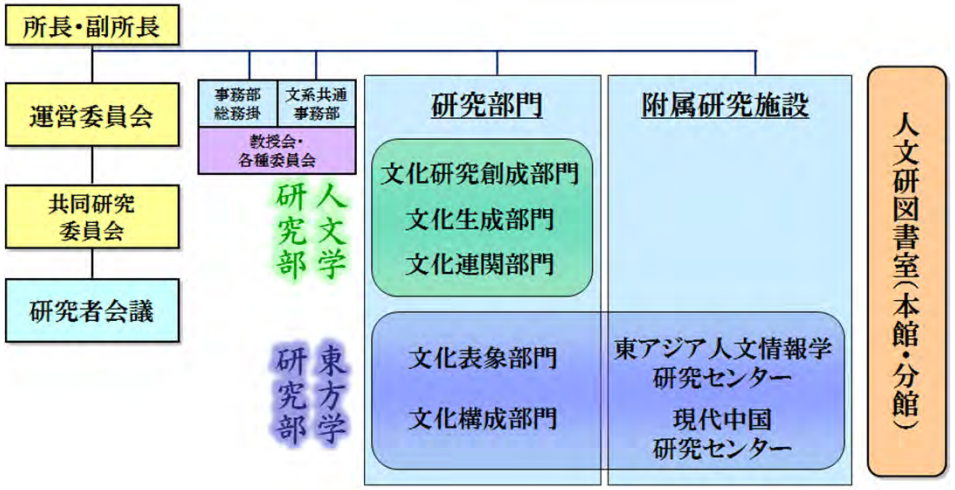
多民族・多文化間の調和ある共生に資する知見を人文科学の分野から発信している。2010年度より共同利用・共同研究拠点の「人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点」として世界的視野から複数文化の生成、変動、相互交渉等を研究し、地球社会の調和ある共存に資する学術的知見を提供している。

組織

５部門（文化研究創生、文化生成、文化連関、文化表象、文化構成）
２附属研究施設（東アジア人文情報学研究センター、現代中国研究センター）

研究体制

多様な関心に基づく個人研究
高頻度で開催されるハイレベルの共同研究
公募型13件、公募型以外20件　（R3年度）



重点プロジェクト

「生きるための人文学」研究拠点形成
「みやこの学術資源」研究・活用

資料

図書　約67万冊、雑誌　約1万600種
他に考古美術資料約12万点、地理民俗資料約4万点、文革期刊行物資料約6万点、
華北交通写真資料約3万5千点、映画・演劇資料約1万5千点

Ⅱ　活動状況

1. 共同研究

（1）共同研究の募集・種類

①課題公募班（A班）：

課題自体を公募（班長は所外の研究者）

一般：原則3年、年10回前後の研究会を開催

若手：班長は40歳未満、研究会・公開シンポジウムの開催(年2回以上）

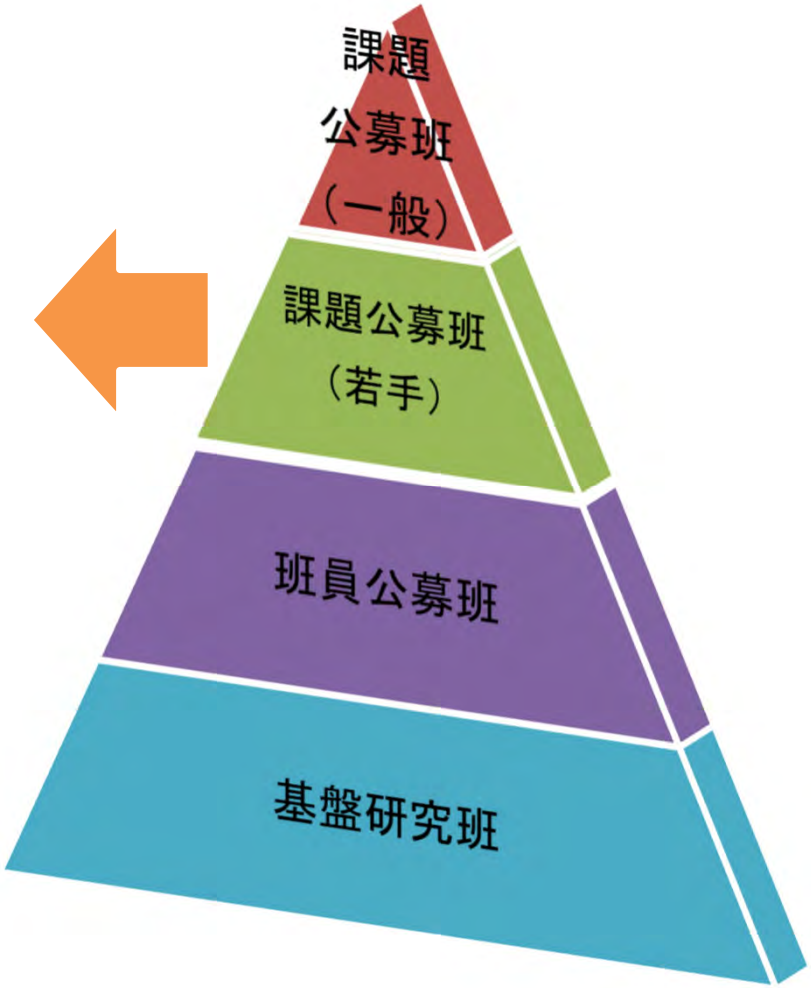
②班員公募班（B班）：

課題は所内で選考し、班員を募集し、所内の研究者が班長を務める3～5年のビッグ・プロジェクト

③基盤研究班（C班）：

B班と同じく隔週または毎週、研究会を開催

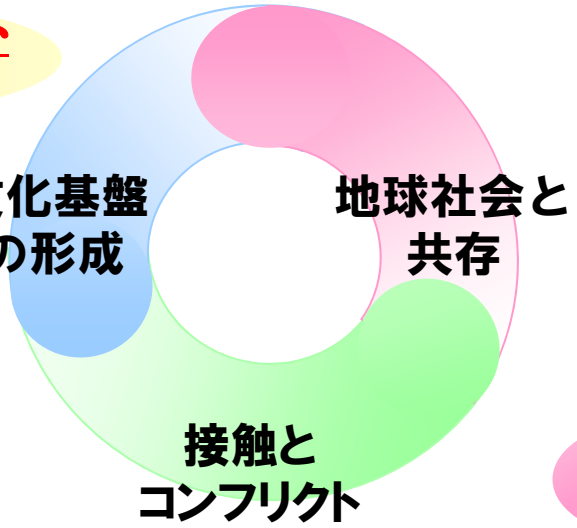
課題の性質に合わせた多様な研究班が存在、C班がA・B班の基礎研究・リサーチの役割を果たすなど、相互に連携を保つ



1. 共同研究

世界的視座から文化の創成・接触・変容を研究

3つのコンセプト



テーマ1　文化基盤の形成

■清代～近代における経学の断絶と連続
■日本の伝統文化を問い直す
■仏教天文学説の起源と変容
■「語りえぬもの」を語る行為とその思想的表現に関する学際的研究
■近代日本の宗教と文化
■近現代日本の研究資源に関する基礎的研究
■20世紀中国史の資料的復元
■秦漢法制史料の研究
■東アジアの宗教美術と社会
■毛沢東体制と公安警察に関する歴史的考察

テーマ2　接触とコンクリフト

■東方ユーラシア馬文化の研究
■人物で見る第二次世界大戦
■インドにおける「循環的存在論」の形成
■チベットにおけるコミュニケーションツールの研究
■近現代中国の制度とモデル
■帝国日本の「財界」形成についての研究
■前近代ユーラシアにおける戦争と外交
■前近代内陸アジアとその隣接地域の社会と文化
■北朝石窟寺院の研究
■中国在家の仏教観

テーマ3　地球社会と共存

■実験性の生態学
■東アジア災害人文学の構築
■ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論にむけて
■科学的知識の共同性を支えるメディア実践に関する学際的研究
■環境問題の社会史的研究
■人の分類と人種化に関する国際比較研究
■ポスト=ヒューマン時代の基点としてのフランス象徴主義
■芸術と社会
■家族と愛の研究
■古典中国語のコーパスの研究
■東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究
■漢籍共同研究システムの構築

（課題公募班・若手を除く。
赤字は課題公募班・一般）

1. 共同研究

(2)共同研究への参加状況

（2021年度延べ人数）

区分	延べ人数			
京都大学	2473人	うち、海外研究者 871人	うち、若手研究者（35歳以下） 1,388人	うち、大学院生 799人
国立大学	733人			
公立大学	265人			
私立大学	1363人			
大学共同利用機関法人	33人			
独立行政法人等	182人			
民間機関	138人			
外国機関	518人			
その他	26人			
合計	**5,731人**	**（うち、女性研究者　1,633人）**		

1. 共同研究

(3)共同研究班の開催状況と班員構成

- 毎週または隔週で研究会を開催
- 班員の半分以上が学外のメンバーで構成

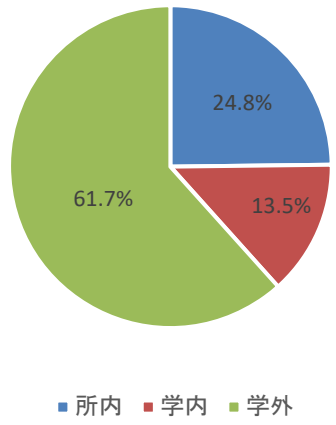
⇨ **開かれた共同研究拠点として活動**

班員の構成

班員の所属	人数
所内	198
学内	108
学外	492
(大学院生)	(50)
合計	798

学外所属の内訳	人数
国立	121
公立	44
私立	201
他	126

班員の所内・学内・学外割合



(2021年度実績)

1. 共同研究

共同研究方法論の伝統と継承

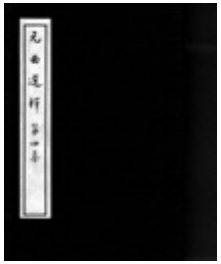
- 共同研究の「草分け」
- 3つの柱を軸として、設立以来の方法論を継承

竹沢泰子　編
『人種神話を解体する』
全3巻
2016年（平成28年）

桑原武夫
18世紀フランス研究
『ルソー研究』
1951年（昭和26年）

岩尾一史・池田 巧（編）『チベットの歴史と社会』上下、
2021年（令和3年）

学際的研究
学界セクショナリズム
の打破



小泉　義之・立木　康介
編　『フーコー研究』
2021年（令和3年）

原典の会読

現地調査

吉川幸次郎
元代雑劇の研究
『元曲選釋』
1951・52年（昭和26・27年）

水野清一
雲岡石窟調査
『雲岡石窟』中国語版
2014年（平成26年）ー
2018年（平成30年）

1. 共同研究

共同利用・情報発信

研究班の課題・班員の公募を含めて
随時ウェブサイトの情報を更新
研究者コミュニティを通じた広報を推進

研究図書館機能
東方学デジタル図書館
人文学貴重資料

東アジア人文情報学研究センター
発信方法の研究と実践

全国共同利用
拠点としての
研究支援・資料収集

全国漢籍データベース
文字字体変遷データベース
東洋学文献類目

デジタルアーカイブ
（非文字資料）

（赤字は重点事業）

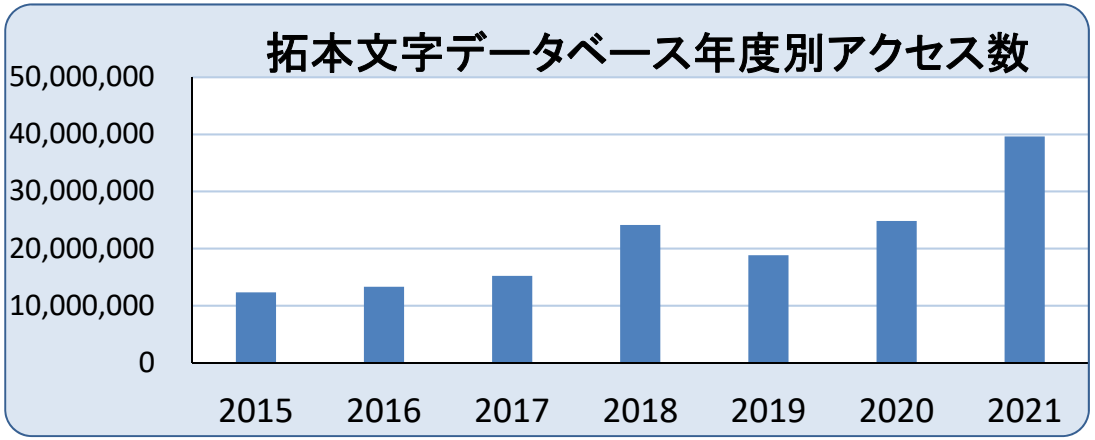
2. 共同利用

・データベースの利用状況

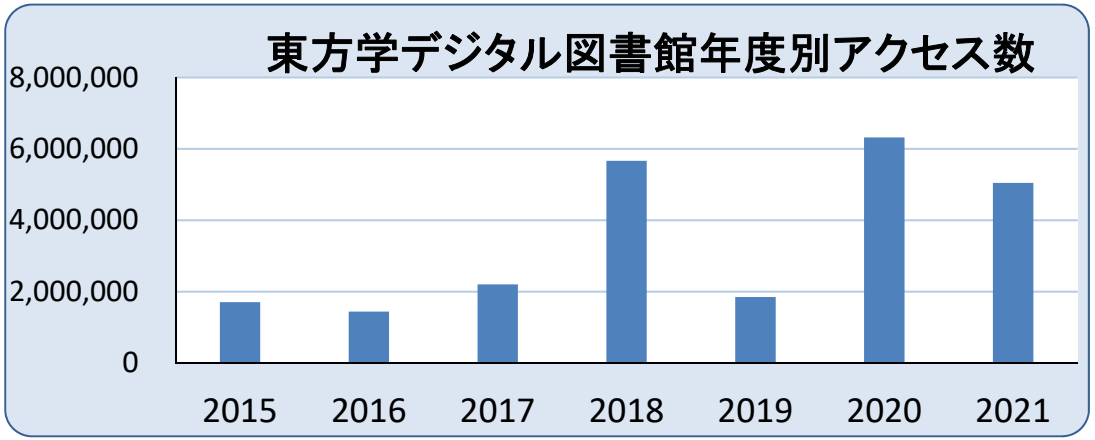
一日当たり利用件数　15万件

データベース名	アクセス数
京都大学人文科学研究所 所蔵石刻拓本資料（拓本文字データベース）	39, 620, 324
全国漢籍データベース	24, 872, 950
東方学デジタル図書館	5, 045, 055
CHISE 文字オントロジー	8, 929, 834
東洋学文献類目 (R3.8-R4.3　ログ記録が取得できなかったため不明)	6, 897, 143
所蔵中国雑誌	110, 726
地図	46, 299

拓本文字データベース（2005年2月18日運用開始）



東方学デジタル図書館（2003年10月20日運用開始）

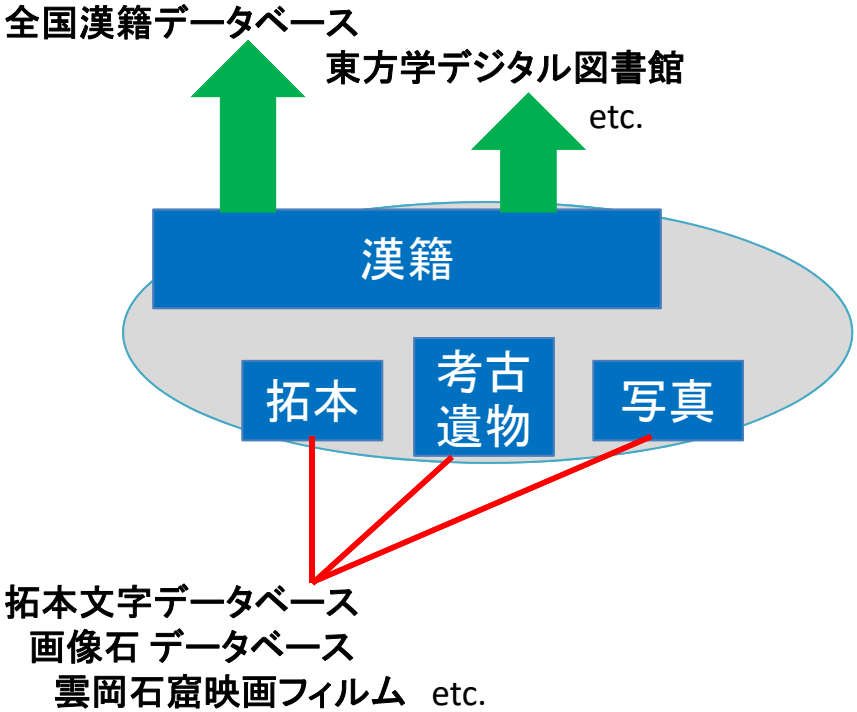


2. 共同利用

(2)附属施設　東アジア人文情報学研究センター

前身の組織を
2009年に改組

- 全国の図書館職員を対象とする漢籍担当職員講習会、一般の聴衆を対象とするTOKYO漢籍SEMINARを毎年開催
- 世界有数の漢籍を初め、多くの資料を収蔵、それらの汎用データベースを作成して、現物と同じく広く研究者などに公開



2. 共同利用

(2)附属施設

現代中国研究センター

2007年設立

人文学的・歴史学的パースペクティブから現代中国を分析

二つのアプローチに基づく研究班により総合的に現代中国を把握
政治史・文化史的アプローチ　社会史・経済史的アプローチ

中国語・英語による積極的発信
出版と国際会議開催

研究基盤整備

国際シンポジウム開催

現代中国研究センター
関連刊行物

現代中国情報資料集積基地
（新聞・新編地方史・地図を収集）

現代中国共同研究室
（外国人・若手研究者が共同利用）

2. 共同利用

(3)重点プロジェクト

「生きるための人文学ー文理芸融合による新学問領域の創成ー」研究拠点形成

事業概要・これまでの取組実績

「共同研究」の元祖 人文科学研究所は、世界に例をみない人文学の総合研究拠点として、年25件程度の共同研究班・公募型共同研究・国際共同研究を組織し、その成果を世界に発信し、日本の人文学をリードしてきた。

分野をこえた“気づき”の場

人文研で発見しました！

知の交換

その文書、〇〇と類似性がある！

多彩な共同研究参加者

芸術家

角田光代(小説家)・三輪眞弘(作曲家・情報科学芸術大学院学長)・ジェイミー・アウスレー(ジャズミュージシャン・州立フロリダ国際大学)・能作文徳(建築家・東京工業大学)・本原令子(陶芸家)等々

世界トップクラス研究者

中国のノーベル賞と言われる「長江研究者」・欧米を代表する研究機関研究者

年1万人におよぶ共同研究参加者

正規共同研究班員724人(学外研究者62%・院生・ポスドク研究者66人)

次なる課題は

思考の変遷の軌跡がわかる学術資源の総合的な調査・研究

「在野の芸術知を人文学へ摂取」「人文学の知を芸術の形式で発信」

協調性・柔軟性・普遍性をもつ日本文化のもとで、欧米・異分野の学知を吸収・融合・発展させて新たな学知を構築し、日本人の思考と言葉で世界に発信してきた日本の人文学の伝統を継承し、**文芸理を融合**させることで「大きな物語」＝未来像を創造し、多言語で世界に発信

【文芸理融合】科学と人文学と芸術は本来、人の真理認識の形式として不即不離の関係にある。
偉大な科学者たちが、芸術からインスピレーションを受けてきたことは偶然ではない。
「文」と「理」の融合、そこに「芸術」を加えて三位一体のものとして世界を把握する試みが完結する。

2. 共同利用

(3)重点プロジェクト

「生きるための人文学ー文理芸融合による新学問領域の創成ー」研究拠点形成

人文学＋自然科学＋AI技術者＋メディアアーティストの共同研究班:「システム内存在としての世界についてのアートを媒介とする文理融合的研究」(2019-2021年)

⇒コロナ禍でオンライン音楽配信の試み(人文研と共催):「ぎふ未来音楽展2020 三輪眞弘祭 ー清められた夜ー」
ぎふ未来音楽展2020 三輪眞弘祭 ー清められた夜ー ｜ サラマンカホール 現代音楽 (gifu-fureai.jp)
⇒佐治敬三賞とサントリー音楽賞をダブル受賞:「コロナ禍を真正面から引き受けた、世界的に見てもまれなレベルの配信」と評される

歴史学＋生命科学＋人類学＋アーティストのコラボレーション研究会「ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論に向けて」(2021-2024年)
感染症の歴史を知り、感染症の時代を生きぬく社会・環境理論を探る

芸術と人文学の対話　動画配信:『「令和鎖国」日本の水際対策で引き裂かれる家族たち』:ゲスト:新井卓氏(写真家・芸術家)
https://www.youtube.com/watch?v=sHffvYlbsAw&feature=youtu.be

自然科学と人文学の対話:「AIMによる体内のゴミ掃除という観点からみた対新型コロナウイルス戦略」　ゲスト:『猫が30歳まで生きる日』で話題の宮崎徹氏(東京大学医学部)
新型コロナウイルスの医薬品開発をめぐる議論

2. 共同利用

(3)重点プロジェクト　「みやこの学術資源」研究・活用

事業概要

京都大学
- **人文科学研究所**
- 文学研究科
- 総合博物館（研究資源アーカイブを含む）
- 大学文書館
- 附属図書館

- 京都国立博物館
- 京都市美術館
- 泉屋博古館
- 国立民族学博物館
- アンスティチュ・フランセ
- アジア臨地研究欧州コンソーシアム（ECAF）
- フランス国立極東学院（EFEO）
- イタリア国立東方学研究所（ISEAS）
- 日本イタリア会館

学術関係機関

学術資源の掘り起し → 先端的な人文学の機能強化 → 学術資源情報の公開

絵画資料　映像資料　文書　図譜　図書

京都研究の再構成
- 100年後の人文学への学知の伝達・継承
- 学術資源の蓄積、フィールドワークの伝統

思想史・歴史学・文学
農学・医学・社会学・人類学
ヨーロッパ研究・美術史・文化財学・アジア研究

調査された学術資源のデータ目録を作成

研究成果の国際発信

調査　発掘 → **整理　研究** → **公開　発信**

共同研究
共同事業

京都国立博物館

アンスティチュ・フランセ

近代日本・近代京都研究の国際拠点
みやこの学術資源研究プロジェクト

事業の目的・必要性・重要性

目的

学術資源に基づく、日本・京都の先端的な人文学の学問的再構成と国際発信

→ 「みやこの学術資源研究」プロジェクトの推進
近代日本・近代京都研究の国際的研究拠点へ

必要性・重要性

学術資源の発展的継承
学術資源の継承・整理・解析の重要性に鑑み、平安京以来の伝統を有する京都の立地を活かし、その拠点としての「みやこの学術資源研究」プロジェクトを推進する。

学術資源を統括するハブ機能の形成
「みやこの学術資源研究」プロジェクトでは、今までの人文科学研究所の実績を活かし、①学内のネットワーク形成、②学術資源の調査・整理・研究、③国際的な学術関係の強化、情報発信、④先端的な人文学の機能強化という4つの事業に関してハブ機能を形成する。

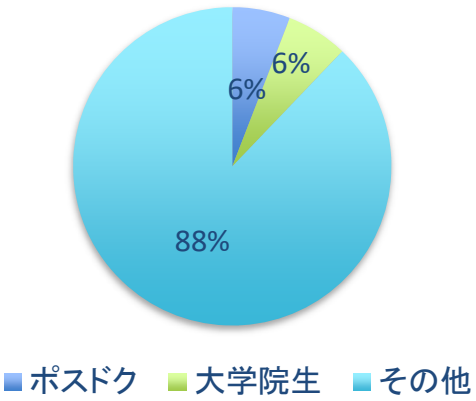
3. 共同研究を通じた人材育成

（1）大学院生、ポスドク研究者への参加を呼びかけ

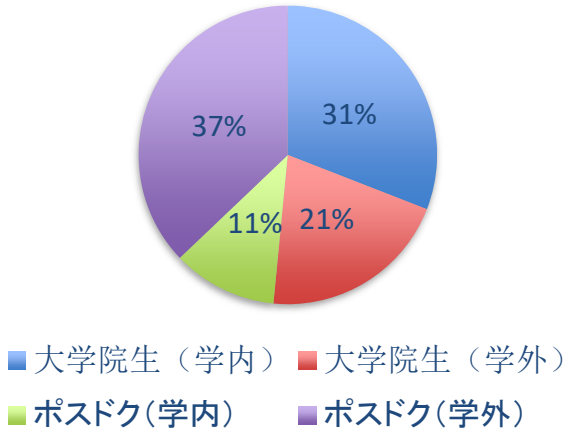
共同研究班員の構成
（全体の約1割が大学院生、ポスドク）

院生・ポスドクの約
3割が学外から参加

班員の大学院生・ポスドク



大学院生ポスドク内訳



（2）日本学術振興会特別研究員や海外の若手研究者の積極的受入れ

学振 特別研究員	研修員	研究生	研究員	ＲＡ	オフィス・ アシスタント	研究支援 推進員	合計
8	0	8	10	13	13	5	57

（2021年度実績）

4. 共同研究でしか成し得ない研究成果

8年間にわたる第一次世界大戦の共同研究

『レクチャー　第一次世界大戦を考える』（人文書院、2010～2014年）

『現代の起点　第一次世界大戦　1～4巻』（岩波書店、2014年4～7月刊）

現代世界の起点ともいうべき第一次世界大戦に関する8年間の共同研究の成果を、人文書院のシリーズ「レクチャー　第一次世界大戦を考える」（全12冊）、岩波書店の『現代の起点　第一次世界大戦　1～4巻』等のかたちで刊行。

『人種神話を解体する　1～3巻』

（東京大学出版会　2016年9～11月刊）

日本の被差別部落、アイヌ、天皇制、ロマ、韓国の白丁、アメリカの黒人、また人種神話を生み出す科学知とそれを解体する新たな科学知、そして歴史的「混血児」表象からミックスレイスの人々の生き方までを扱いながら、グローバルに通底する人種表象・人種主義のしくみに迫った書

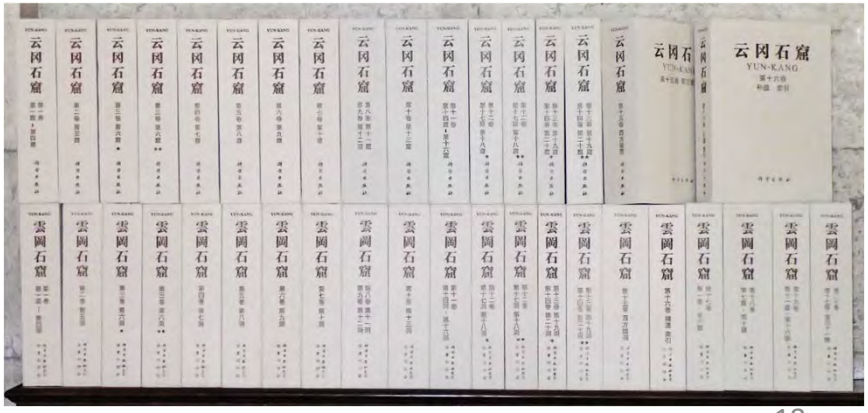
『雲岡石窟』全20巻42冊

（**日英語版**：科学出版社東京・国書刊行会　2013～2017年）

（**中国語版**：科学出版社　2014～2018年）

龍門と敦煌に並ぶ中国三大石窟の1つである雲岡石窟を包括的に調査した報告書。

中国社会科学院考古研究所との共同編集により既刊の16巻に4巻9冊を増補。



5. 外国人研究者等の受入人数（2021年度）

招へい研究員	招へい 外国人学者	外国人 共同研究者	研修員	研究生
1	5	4	0	7

外国人研究者等出身国

中国、台湾、アメリカ、フランス、アイルランドなど

6. 学術交流協定締結状況

・**フランス**：フランス政治学財団（シアンス・ポ）、ヨーロッパ・アジア研究コンソーシアム、LABEX（Excellence Laboratory）TEPSIS 、国立高等研究実習院

・**ドイツ**：ミュンスター大学中国学研究所、ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所

・**アメリカ合衆国**：ハーバード燕京研究所

・**韓国**：東国大学校文化学術院、高麗大学校民族文化研究院、韓国全北大学韓国科学文明学研究所

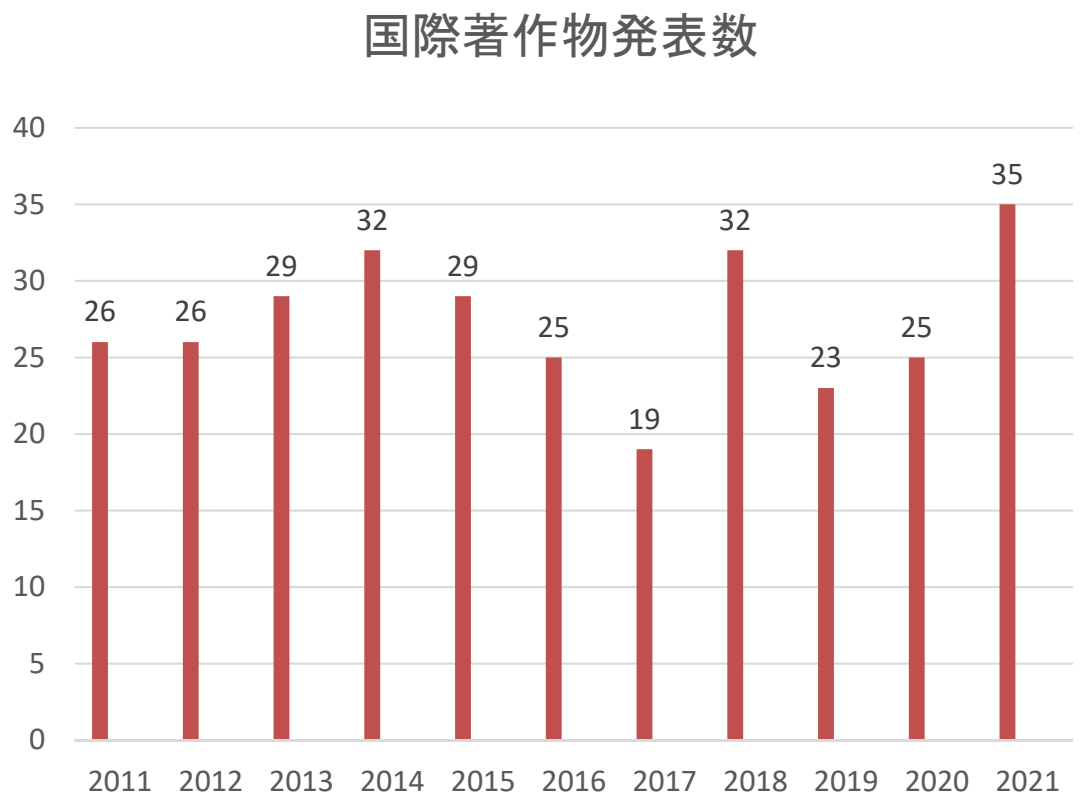
・**中国**：中国政法大学法律古籍研究所、華東政法大学法律史研究中心、南京大学域外漢籍研究所

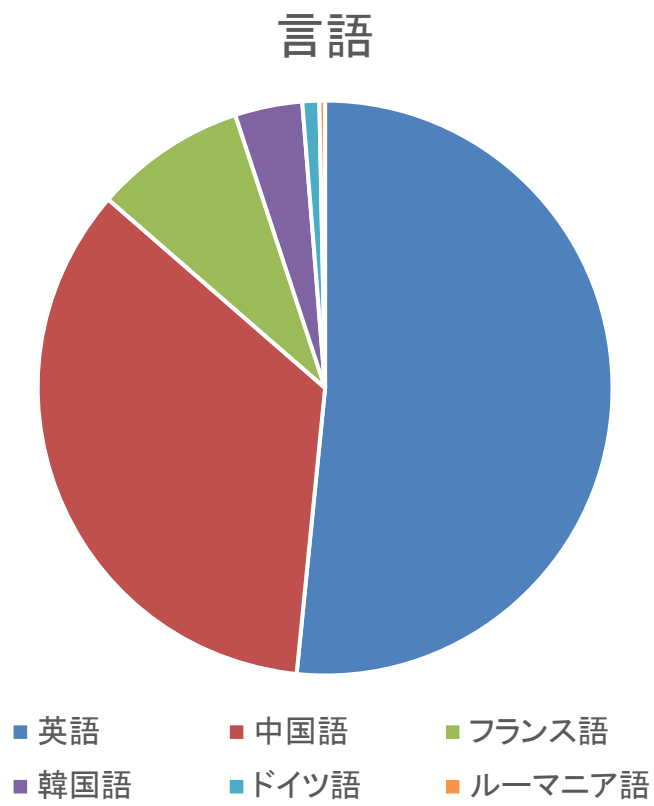
・**台湾**：中央研究院歴史語言研究所、中央研究院近代史研究所、中央研究院台湾史研究所、台湾大学文学院日本研究中心、台湾国家図書館

（16機関）

7. 国際著作物（著書・論文など）

毎年多数の成果：12年間で316件
英・中・仏・韓など多言語での発信





8. 外部資金　取得状況 （2021年度） 金額単位:千円

	新学術領域研究（研究領域提案型）		基盤研究Ｓ		基盤研究Ａ		基盤研究Ｂ		基盤研究Ｃ		挑戦的萌芽研究		若手研究A		若手研究B若手研究	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
件数				1	2	1	3	7	3	8		1			1	3
金額（千円）				32,800	15,200	4,200	10,200	20,300	2,600	6,500		1,400			700	2,600

	国際共同研究加速強化		研究活動スタート支援		研究成果促進経費（学術図書）		特別研究員奨励費		外国人特別研究員奨励費		受託研究費		合　計		
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	計
件数	1	1		1	1		3	5	1		1	1	16	29	45
金額（千円）	500	0		1,000	2,000		2,200	6,929	1,200		4,180	5,000	38,780	80,729	119,509

９. シンポジウム等の実施状況（2021年度）

（1）研究者を対象とするもの

①シンポジウム・講演会　　4件

②セミナー・ワークショップ等　1件

③その他　2件

合計7件（参加人数：406人）

（2）一般の方を対象とするもの

①シンポジウム・講演会　3件

②セミナー・公開講座等　3件

合計 6件（参加人数： 500人）